

平成 21 年度春 プロジェクトマネージャ試験分析速報

2009,4,20 (株)アイテック 情報技術教育研究グループ

1. 全体について

新試験制度で初回の実施となった平成 21 年春期のプロジェクトマネージャ試験の分析(速報)について述べます。問題の難易度については、午前、午前、午後、午後いずれについても標準的な難易度のレベルとと思われます。プロジェクトマネージャとしての知識や能力を試すのに必要十分な標準的な問題であると考えられます。従来どおりの傾向を踏襲して、奇異な問題が出題されないような工夫が見られ、良問が揃っているように思われます。

午前では新しい形式で出題されたこと、午後では、必然的な自然なストーリー構成の問題で、設問数を多くして設問一つあたりの解答字数を短くすること、午後においては、設問イ、ウの制限文字数と形式が新しくなったことが特徴として挙げられますが、全体として真の職務遂行能力の有無を試そうという趣旨が伺えます。

2. 午前 講評

従来の午前試験と比較すると、難易度は低くなったと思われ、難しい問題はあまりありませんでした。分野的には、出題範囲の分野からほぼ満遍なく出題がされていました。

新しい傾向としては、サーバで使用されるオープンソフトウェアに関する問題が出題されていたことと、TLO 法の問題が出題された点などが挙げられます。

問題の冒頭に、論理回路の表記ルールが提示されたので、論理回路の問題が多く出題されるのかと思いましたが、1 問出題されただけで、しかも問題文の中で再度論理回路の説明がされていました。

3. 午前 講評

今回から高度区分共通問題の午前と試験区分ごとの専門分野の知識を問う午前に、午前問題は分割されました。専門分野ですが、難問と言うより全体的に基本的な知識を問う問題でした。従来から過去出題問題の再出題が多く見られていますが本年もその傾向は見られています。おおむね予想された範囲内の問題で比較的容易に取り組むことができたのではないかと思います。

新規の問題としては形式的に 10 問ほど見られていますが、内容的にはあまり見当たりません。そんな中で、プロジェクトマネジメント分野は、工夫を凝らして出題されているように思われます。いずれも用語の知識の十分な理解がないと解答が困難だったと思われます。特にリスクマネジメントに関する問題が重点的に出題されました。これらの問題は、過去問題の再出題として今後また出題される可能性は高いと思います。

また、今回は計算問題が比較的少なかったことが特徴として挙げられます。電卓を使わ

ずに効率的に解答する状況において適切だったと思われます。

以上から、内容的には難易度は普通と思われますが、知識の有無により解答時間に受験者の中で差が出たのではないかと考えられます。

4. 午後 講評

今回から4問中2問を解答しなければならない形式に変更されました。90分で2問解くことになり、従来よりも時間的な負荷は低くなりました。しかし、どのように効率よく解答するかは相変わらず午後 問題の解答の鍵となります。今回は出題分野として問1はプロジェクトのリスク管理、問2は外部委託先の選定、問3はプロジェクト推進方法の見直し、問4はソフトウェア開発の品質管理に関する出題でした。今回は、問題間の難易度格差という点ではあまり差がなく、午後 としては適当な内容といえるでしょう。

各問題について出題内容を見ていきます。

問1 プロジェクトのリスク管理

製薬会社の生産管理システムの開発を題材として、プロジェクトのリスクマネジメントに関する問題です。リスク分析手法の表が問題のキーとなっていて、リスクマネジメントプロセスを十分に理解しているかどうかで解答に影響すると思われます。この点を考慮して、やや難しいと考えます。

問2 外部委託先の選定

金融機関の事務センタにおけるシステム再構築を前提にした、請負契約での外部委託先の選定に関する問題でした。評価に関する表に基づく定量評価が問題の中心になります。問題文の文脈と表の定量的意味をしっかりと理解することがキーとなります。難易度は普通と考えられます。

問3 プロジェクト推進方法の見直し

追加開発案件での、委任契約から請負契約への契約形態変更を題材とした、プロジェクト管理の見直しについて問う問題です。この問題は、仕様変更ルールや定例会議の運営ルールの見直しが設問の中心です。解答数が多くていねいに解答する必要がありますが、問題文の文脈に沿って知識をうまく組み合わせればさほど難しくなく、全体として難易度は普通と考えます。

問4 ソフトウェア開発の品質管理

携帯電話のソフトウェア開発の品質管理に関する問題です。いわゆる組込みソフトウェア開発分野の出題ですが、組込み系の開発技術そのものに踏み込んだものではなく、あくまでプロジェクト管理の知識を問題文の状況において裏付けて解答していけば比較的容易に解答できます。難易度としては普通と考えます。

各問とも適切な問題で、全体の問題間格差はほとんどないと思われます。

5. 午後 講評

午後は、従来通り3問中1問を選択して行う論述試験です。今回からは字数制限が変更され、設問ごとに字数の制限が設定されています。内容的には従来みられたようなより具体的な状況を特定してPMとしての判断能力を問う出題というより、だれしものが経験するであろう一般性の高い出題となっています。

問1は要員に対する動機付けに焦点を当てて経験や考えを問うもので、工程や管理内容を問わず幅広く題材を考えることができたと思います。問2は、設計工程での品質管理施策について問う一般性の高い問題でした。品質管理施策や確認活動の内容は限定されているわけではなく、たいていの人が、準備した題材とのマッチングも比較的容易だったのではないかと思います。問3は業務パッケージに関する問題でこれまた特定のではなく自由度の高い問題でした。ただし、実際に業務パッケージ開発の経験がないと少し難しかったと思います。難易度としてはどの問題も自由度が高く、やや易しく書きやすいものと考えます。ただし、問3は業務パッケージ開発の経験があるかどうかの書きやすさに影響があると思われ、人によってはやや取り組みにくかったかもしれません。

問1 システム開発プロジェクトにおける動機付けについて

本問は「要員管理」に関する問題です。プロジェクトメンバに対する動機付けの働きかけや管理施策について問われています。問題文の説明は非常に身近に感じられ、多くの人が何らかの経験を題材に論述できるものと考えられ、この問題を選択した人は多いと思われます。しかし、感覚的なよもやま話になりやすく、問題の状況や対策をていねいに説明した上で、考えや理由を論理的に述べないと高評価につながりません。書きやすいが経緯報告に終始しやすいので、よりていねいな論述表現を心がける必要があります。

問2 設計工程における品質目標達成のための施策と活動について

本問は、品質管理に関する問題で、品質目標を達成するための施策と活動の内容を問うものです。この問題は、設計工程にフォーカスしているので、品質管理活動でも要件定義やテストなど工程ずれの論述にならないよう注意する必要があります。内容的には自由度が高く選択しやすいですが、PMというよりもエンジニア的な視点で実施した経緯の報告のみに終始してしまう恐れがあります。論点を明確にして、考え・主張を展開していくことを特に心がけて論述する必要があります。

問3 業務パッケージを採用した情報システム開発プロジェクトについて

本問は業務パッケージの使用に関する問題です。業務パッケージ使用開発プロジェクトに標準的なテーマであるカスタマイズの抑制について問うものです。この問題も観点は一般的であり、題材としての制約は少ないものと思われます。ただし、プロジェクトマネージャとして業務パッケージによる開発プロジェクトを行った経験がない人は、論点や主張をまとめにくく、やや書きにくかったものと考えられます。

以上